含要類纂
明治十一年
文部省来書職務之部
含要類纂 明治十一年 文部省来書職務之部
266

明治十一年
會要類纂
文部省来書職務之部
五十年史料
266

貴学部校舗長幷教員（外国人教員共）雇員等現今宿所取調候ニ付界紙ニ御認メ至急御差出有之度候也

文部省

十一年一月七日　内記所

東京
大学三学部
大学医学部
外国語学部
女子師範学校

教育博物館

各御中

追而御回達周尾ヨリ御返却有之度存也

不二麿儀忌引中文部少輔神田孝平ヲ省務代理相嘱候処除服出仕ニ付右代理相解候条此旨相達候也

明治十一年一月十一日

文部大輔田中不二麿

一月二日

文部大書記官野村素介

本日皈京

内第四十号

東京大学三学部雇
山田鎮三

任文部省八等属
會計課可相勤事

本日右之通相達候条此旨通知候也

十一年二月一日
文部省

東京大学三学部

別紙為心得及回達候也

十一年二月一日　文部省

東京
大学三学部
大学医学部
外国語学校
師範学校
女子師範学校
教育博物館

追ゝ回達図尾ヨリ返戻可有之候也

二月一日

文部大書記官野村素介

学務課長ノ任ヲ兼囑候事

文部権大書記官辻新次

同上

内第弐十七号

和田維四郎

東京大学理学部助教ヘ任ヲ嘱シ一ヶ月金五拾五円交付候事

本日右之通相達候条此旨通知候也

十一年二月六日

文部省

東京大学三学部

三月五日
文部大輔従四位田中不二麿
兼任議官

府　縣

地方官會議被開候ニ付来ル四月一日ヲ限リ各府縣長官着京可致此旨相達候事

但事務上差支長官出京難相成節ハ書記官出京可致事

明治十一年二月廿六日

太政大臣　三条実美

官院省使府縣

太政大臣従一位勲一等三條実美

兼任賞勲局総裁

参議兼工部卿法制局長

正四位勲一等　伊藤博文

兼任議定官　如故兼工部卿法制局長官

参議　伊藤博文

地方官會議々長被

仰付候事

右之通本日　宣下相成候条此旨相達

候事

明治十一年三月五日

太政大臣三條実美

文部省處務時限今後毎年左之通相定候條此旨及回達候也

五月一日ヨリ午前第八時参省午後第二時退省
七月十一日ヨリ午前第八時参省正午第十二時退省
九月十一日ヨリ午前第九時参省午後第三時退省

明治十一年四月三十日

五月一日

文部権大書記官辻新次

第七大学区福島宮城両県下学事巡視可致事

五月八日

文部権大書記中島永元

會計課長ノ任ヲ兼嘱候事

東京大学
法学部
理学部
文学部

其学部職制及事務章程別紙之通更定候條此旨相達候事

明治十一年五月十五日

文部大輔田中不二麿 印

東京大学法学部理学部文学部職制及事務章程

東京大学法学部理学部文学部ハ文部省ノ所轄ニシテ本部ニ属スル諸学科ヲ教授スル所ナリ其所管左ノ如シ

第一　東京大学豫備門

第二　小石川植物園

職制

綜理

第一本部及豫備門植物園ノ事務ヲ綜理スルコトヲ掌ル

第二本部教授員外教授及豫備門主幹訓導助訓ノ進退黜陟ヲ文部卿ニ具状シ其他ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第三申報計算書等成規ニ依テ文部卿ニ具進ス

綜理補

綜理ヲ補助シ綜理事故アルトキハ一切ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

教授

生徒ヲ教導シ其進退ヲ綜理ニ具状スルコトヲ掌ル

助教

教授ニ亜テ其教導ヲ補助スルコトヲ掌ル

員外教授

定務ナシ

事務章程

事務ヲ大別シテ上下両款ト為ス其上款ハ綜理ノ意見ヲ具シ文部卿ノ允許ヲ経テ然ル後施行スルヲ得其下款ハ綜理之ヲ専行スルヲ得上下両款ノ事務ニ於テ綜理皆其責ニ任ス

上款

第一 学科ヲ廃置増減シ其課程ノ年数ヲ伸縮スル事

第二 地所ヲ増減シ費額金千円以上

十年十一月四日金額ヲ四百円ト改正セラル

ヲ以テ廈屋ヲ新営修繕スル事

第三　外国教員ニ金三百七拾円以上ノ月給ヲ与フル事

第四　給費生徒ノ人員及其金額ヲ増減スル事

第五　傭外国教員ノ数ヲ増スル事

第六　内外教員属員等賞与ノ事

第七　外国教員ヲ校用ニテ内国各地ニ派遣シ或ハ内地旅行願ヲ許スル事

第八　内国教員属員過失アルトキ之ヲ懲戒スル事

下款

第一　諸学科中諸課目及授業時間ヲ撰定釐革スル事

第二　諸規則ヲ制定改正スル事

第三　外国教員ノ傭入傭継傭止ヲ決シ并其月給ヲ定メ其條約ヲ結フ事

第四　属員傭入傭止其給料ヲ定ムル事

第五　校用ニテ内国教員属員等ヲ内国各地ニ派遣スル事

第七　生徒ヲ募集増減スル事

第八　生徒ニ卒業証書ヲ授与スル事

第九　生徒ニ給費ヲ与フル事

第十　生徒ヲ進退褒罰スル事

第十一　内国教員属員ノ皈省及暇願ヲ許ス事

第十二　費額諸部分ノ豫算ヲ為ス事

第十三　講師ヲ嘱シ其報謝ヲ為ス事

第十四　教科書雑誌及諸規則類ヲ編纂印行スル事

第十五　校務ニ関シ内外人ニ贈答往復スル事

第十六　学科須要ノ図書器械雛形草木等ヲ内外諸学校等ト交換スル事

第十七　生徒ノ受業料ヲ増減スル事

第十八　内外教員属員ニ職務外ノ事ヲ嘱托シ或ハ内外人ヨリ学用物品ヲ贈賂シタル時之ニ報謝ヲ為ス事

第十九　不用ノ厦屋ヲ取毀不用ノ図書器械物品草木等ヲ売却スル事

以上

十年十二月四日追加

第二十　外国教員ヲ饗應スル事

十一年十二月廿三日追加

第廿一　所管ノ事務ニ付各廳ニ照會スル事

直轄学校
教育博物館
陸軍中将兼議定官従四位勲一等西郷従道
兼任参議文部卿 兼議定官如故
右之通本日宣下相成候条此旨相達候
事
但本文之趣御雇外国教師ヘハ其
綜理 学校 摂理 長ヨリ可相通候事
明治十一年五月廿四日　文部大輔田中不二麿

理学部教授今井巖紙幣局ヘ採用之件ニ渉リ別紙之通再答有之候ニ付明後廿四日該局ヘ出頭候条本人ヘ相達候此旨申進候也

明治十一年六月廿二日

文部大書記官野村素介

東京大学三学部綜理

加藤弘之殿

東京大学理学部教授今井巌當局江採
用致度旨及御照會候処本人儀當局江
採用候共一両年間ハ理学部講師之兼
務ヲ被託一周間大約十時間程同部江
出務相成候儀當局ニ於テ差詰ニ及ハス
御差支無之云々御回答之趣逐一致承
了候就テハ明後二十四日午前第九時
礼服着用當局ヘ出頭候様本人ヘ御達
相成度此段再答旁及御掛合候也

十一年六月廿二日

紙幣局長得能良介

文部大書記官野村素介殿

追テ御端書之趣是亦致承知候也

今井巌紙幣局ヨリ採用之件ニ渉リ過日来往復之末本日該局ヨリ別紙之通申付候ニ付テ右理学部講師ノ兼務ヲ被托候儀ニ貴学部ヨリ御托相成候哉否該局書記官ヨリ省問合有之候ニ付此旨一応及御照会候条否折返シ御回答相成度候也

明治十一年六月廿四日　文部大書記官野村素介

東京大学三学部綜理

加藤弘之殿

今井巖

製肉部技師申付候事

明治十一年六月廿四日

紙幣局長得能良介

製肉部技師
今井巖

日給四円五拾銭下賜候事

明治十一年六月廿四日

紙幣局長得能良介

七月十八日

文部権大書記官中島永元

會計課長ノ兼任ヲ解ク事

第三十三号　　官院省使府縣

奏任官公務ノ為メ太政官并宮内省ヘ
出仕候節ハ中仕切御門外迄乗車乗馬
被差許候条此旨相達候事

但拝賀参拝等ノ節ハ従前ノ通表門
外ニ於テ下乗下馬可致事

明治十一年七月廿九日

太政大臣三条実美

八月廿八日　文部大書記官野村素介

會計課長ノ任ヲ兼攝候事

甲斐鉄三郎

依願東京大学豫備門助訓ノ任ヲ解候
事

本日右之通相達候条此旨通知及也

十一年九月七日

文部省

東京大学三学部

九月十一日　文部大書記官野村素介

會計課長兼任ヲ觧候事

東京大學法理文學部

九月十二日

参議兼文部卿　西郷従道

山縣陸軍卿病気療養中陸軍卿兼勤

被　仰付候事

太政官

内才百四十五号

東京師範学校雇
高嶺秀夫

東京大学理学部教兼務ノ任ヲ嘱シ候事

本日右之通相達候条此旨通知候也

十二年九月十八日　文部省

東京大学三学部

内分百五十六号

東京師範学校雇
兼東京大学理学部助教
高嶺秀夫

東京師範学校長補ノ心得ヲ以テ校務
ニ参与可致事

本日右之通相達候条此旨通知候也

十二年九月十六日

文部省

東京大学三学部

十月十六日

伊沢修二

東京師範学校長補ノ任ヲ嘱シ一ヶ月
金九拾円交付候事

十月廿五日

東京師範学校長補伊沢修二

体操傳習所主幹ノ任ヲ兼嘱候事

十月廿六日

秋山恒太郎

依願東京師範学校長ノ任ヲ解候事

東京大学
法学部
理学部
文学部

其学部事務章程中上款第二金三百五拾円ヲ金四百円ト改正下款ニ左ノ一項相設候條此旨相達候事

第二十　外国教員ヲ饗應スル事

明治十一年十一月四日

文部卿西郷従道　印

十一月八日

参議兼文部卿西郷従道

山縣陸軍卿病気平癒ニ付陸軍卿兼勤

被差免候事

学第千七百四十七号

元大学生徒東京府平民大木房英採用
云々別紙之通渡辺司法大書記官ヨリ
問合来候付而ハ同人儀貴学部豫備
門之内ニ入学致居候生徒ニ可有之哉
左候ハヽ就学中不都合ノ儀等無之哉
居詳細御取調御報有之度此段及照會
候也

明治十一年十一月十五日

文部省

学務課長野村素介

東京大学三学部綜理

加藤弘之殿

第四千六百三十号

元大学生徒東京府平民大木房英儀当省テ都合ニ依リ若ニ採用相成候ドモ貴省ニ於テ御差支ノ儀モ有之間敷哉且同人就業中不都合ノ儀等モ無之候哉一応承知致度候間乍御手数詳細御回答有之度此段及依頼候也

明治十一年十一月十三日　渡辺司法大書記官

文部書記官

御中

本年本月第三十六号布告第四項中
馬車寄トアルハ車寄ノ誤

明治十一年十二月五日

太政官書記官

東京大学

法学部
理学部
文学部

其学部事務章程下款ニ左ノ一項相設候條此旨相達候事

明治十一年十二月廿三日

文部卿西郷従道

第二十一 所管ノ事務ニ付各廳ニ照會スル事

東京大学法理医文学部

大阪英語学校

東京外国語学校

東京師範学校

東京女子師範学校

教育博物館

体操傳習所

陸軍中将兼叅議文部卿西郷從道

免兼文部卿

陸軍中将兼参議議定官従四位勲一等西郷従道

兼任陸軍卿兼参議議定官如故

右之通本日　宣下相成候条此旨相達候事

但本文之趣御雇外国教師ヘ夫々綜理学校長摂理ヨリ可相通事

明治十一年十二月廿四日

文部大輔田中不二麿